

太刀 銘 包永

刃長 705 mm 反り 15 mm 元巾 29.0 (30.9) mm 元重 5.8 mm 鎗重 7.3 mm 先幅 19.2 mm 先重 3.5 mm 先鎗重 4.2 mm

鎗造り、庵棟、身幅尋常、鎗幅広く、鎗高。鍛は板目に流れ肌交じり、地沸厚くついて地景入り、鉄色冴える。

刃文は直刃に小湾れ、互の目を交え、下半に比して物打辺りの焼き幅やや広く、刃中よく沸つき、処々荒めの沸交え、刃淵ほつれ、打のけ、金筋、砂流しが頻りにかかり、湯走り風の二重刃、飛び焼きが交じる。帽子は直ぐに先焼き詰めて荒沸つく。茎磨り上げ、先浅い栗尻、鍔目表は新たに筋違が掛かり原鍔不明、裏は鷹羽。

本太刀は九代將軍徳川家重から元服の御用を勤めた功により、享保十四年四月十九日に岡崎藩主で老中の水野和泉守忠之が拝領したもので、爾来、同家に伝来したが後に憲政の神様と称された犬養木堂（毅）の愛蔵になった。第17回特別重要刀剣。

